

現代日本文学の翻訳家たちがその魅力を語り合う
More than Worth Sharing 翻訳家座談会シリーズ（オンライン配信）
～第1回 柴崎友香著『春の庭』の翻訳をめぐって～

国際交流基金（JF）は、2021年1月から毎月1回、日本の現代文学作品を翻訳した海外の翻訳家たちによるオンライン座談会を開催します。

近年、海外で現代日本文学の翻訳作品が大きな注目を浴び、重要な文学賞を受賞することが増えています。現代日本文学は、翻訳によりどのように新しい命を吹き込まれ、海外の読者に受け入れられているのでしょうか。

「翻訳家」に焦点を当てた本座談会では、世界各国で活躍中の翻訳家たちがオンラインで一堂に会します。同一の日本文学作品の翻訳を手掛けたいわば「同志」たちが、究極の共同制作と言われる「翻訳の醍醐味」について、その苦労話や面白さなどを交えながら、共通言語の日本語で語り合います。

本座談会シリーズは全5回を予定し、各回1作品を取り上げます。シリーズ第1回は、2014年に第151回芥川賞を受賞した柴崎友香さんの小説『春の庭』（文藝春秋）です。これまでに世界8か国・地域で翻訳されています（JF調べ）。同作品を翻訳した台湾、英国、フランス、ベルギーの翻訳家4名が、原著者である柴崎さんを交え、作品の魅力や翻訳時のエピソードについて語ります。

記

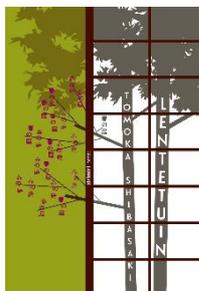
More than Worth Sharing 翻訳家座談会シリーズ 第1回 柴崎友香著『春の庭』概要

開催日時：2021年1月29日（金）19時～20時15分（日本時間） [ライブ配信]

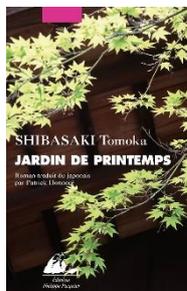
ライブ配信視聴用 URL：<https://livecast.biz/translatorsroundtable/>（予約不要）

使用言語：日本語（後日、英語字幕を付した動画をアーカイブにて公開します。）

<各国語で翻訳出版された『春の庭』>



オランダ語
(出版社：Zirimir Press/オランダ)



フランス語
(出版社：Éditions Picquier/フランス)



英語
(出版社：Pushkin Press/英国)



中国語繁体字
(出版社：聯經出版/台湾)

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

実施の背景

JF は 2012 年から 2017 年にかけて、現代日本社会のなど身大の姿を伝える、優れた著作を集めたオンライン冊子「翻訳推薦著作リスト *Worth Sharing—A Selection of Japanese Books Recommended for Translation*」を発行しました。このうち多数の作品がすでに外国語に翻訳され、海外の読者に親しまれています。

本座談会シリーズでは、この *Worth Sharing* で紹介した 100 作品から 5 作品を取り上げます。第 2 回以降は、『献灯使』（多和田葉子著）、『わたしたちに許された特別な時間の終わり』（岡田利規著）、『ひとり日和』（青山七恵著）、『コンビニ人間』（村田沙耶香著）を予定しています。

開催予定の詳細は決まり次第、JF のウェブサイト、Facebook などでご案内いたします。

第 1 回テーマ作品 『春の庭』（柴崎友香著）

太郎は離婚を機に「ビューパレス サエキⅢ」というアパートに引っ越してきた。取り壊しが予定されている古い集合住宅で、一階と二階に8部屋ある。部屋はいずれも狭く、入居者には独身者が多い。ある日、ふと見上げると、二階の女性が隣の水色の住宅を覗き見していた。

彼女の名前は西といい、売れない漫画家である。学生の頃、偶然「春の庭」という写真集を目にし、写されている住宅と家族の生活にすっかり魅了された。独り立ちしてから忘れられず、ついにその家を探し当て、隣のアパートに入居したのだ。

この作品は入れ子構造になっている。西は、水色の住宅を建てたが手放すことになった夫婦の過去を探り、住宅の内部を見るために新しい住人と友達になる。そうした西の行動を太郎がつぶさに観察している。最後に太郎の姉が登場し、彼らのことを外側から見ている。だが、真の主人公は水色の家であり、「ビューパレス サエキⅢ」であろう。本来、登場人物たちが活躍する舞台である空間が、この小説では主役になった。大胆な挑戦だが、作家は緻密な情景描写と、周到に計算された場面配置によって見事に成功させた。

むろん、登場人物はただ通り過ぎるだけの脇役ではない。太郎も西も水色の住宅を建てた夫婦も家庭崩壊を経験している。愛も家族も日常もガラスのように壊れやすい。そのことが「家」の描写を通して情緒豊かに表現されている。この作品は傷痕の記憶と癒しの旅をめぐる大人の童話でもある。

国際交流基金（JF）発行 翻訳推薦著作リスト *Worth Sharing—A Selection of Japanese Books Recommended for Translation* Vol. 4「日本の生活」より抜粋

「翻訳推薦著作リスト *Worth Sharing—A Selection of Japanese Books Recommended for Translation*」(Vol.1～Vol.5／各シリーズ日・英 全48ページ)



- Vol.1 日本の青春
- Vol.2 日本の地方
- Vol.3 日本の愛
- Vol.4 日本の生活
- Vol.5 日本の過去と未来

https://www.jpff.go.jp/j/project/culture/publication/supportlist_publish/worth_sharing/index.html

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

第1回 登壇者プロフィール（敬称略）

・作家



柴崎 友香（しばさきともか）

2000年『きょうのできごと』（河出書房新社）を刊行（2003年に映画化）。2007年『その街の今は』（新潮社）で、織田作之助賞大賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、咲くやこの花賞受賞。2010年『寝ても覚めても』（河出書房新社）で野間文芸新人賞受賞（2018年に映画化）。2014年『春の庭』で芥川賞受賞。著書に『わたしがいなかった街で』（新潮社、2012年）、『千の扉』（中央公論新社、2017年）、『百年と一日』（筑摩書房、2020年）など。

・翻訳家（五十音順）



(c)Nippon Connection

リュック・ヴァンホーテ（Luk Van Haute）

1963年生まれ、ベルギー在住。東京大学で日本文学を研究後、ノーベル文学賞受賞者・大江健三郎の作品に関する論文でアントワープ大学博士号取得。大江作品に加え川端康成、村上春樹、川上弘美ほか30冊以上をオランダ語に翻訳。日本の現代短編小説42作品からなる文学選集の編纂・翻訳も手掛ける。

執筆者として、日本に関する単著2冊を上梓。日本の文化や社会について、新聞雑誌などに多数寄稿しているほか、大学での講義も行っている。



パトリック・オル（Patrick Honoré）

日本の現代文学、漫画などのフランス語訳を手掛ける。2016年よりパリ第3大学 ESIT 日仏翻訳講師。水木しげる著『のんのんばあとオレ』の翻訳（コーネリウス社、2006年）により2007年アングレーム国際漫画祭最優秀作品賞、リリー・フランキー著『東京タワー—オカンとボクと、時々、オトン—』の翻訳（フィリップ・ピキエ社、2010年）により第17回日仏翻訳文学賞を受賞。川上未映子、古川日出男、内田百閒、夢野久作の作品など、数多くの作品を翻訳している。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

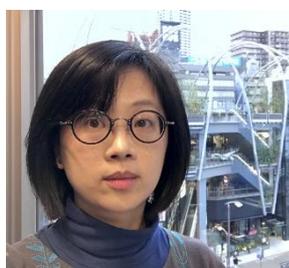
E-mail: press@jpf.go.jp



(c)Garry Loughlin

ポリ・バートン (Polly Barton)

英国ブリストル在住、文学作品およびノンフィクションの日英翻訳家。短編翻訳作品は *Words Without Borders*、*The White Review*、*Granta* に掲載。長編小説訳書は柴崎友香著『春の庭』（プーキン・プレス社、2017年）、松田青子著『おばちゃんたちのいるところ』（ティルテッド・アクシス・プレス社／ソフト・スカル・プレス社、2020年）、津村記久子著『この世にたやすい仕事はない』（ブルームズベリー社、2020年）。2021年4月にノンフィクション作家としてのデビュー作 *Fifty Sounds* をフィッツカラルド・エディションズ社から出版。



黄碧君 (ふあん びじゅん / Huang Bi Jun)

1973年生まれ、台湾の本まわりの情報発信などを行うユニット「太台本屋 tai-tai books」代表。台湾生まれ、日本在住。中国語正体字（繁体字）を扱う。主な訳書は、三浦しをん著『舟を編む』（新経典文化、2013年）、柴崎友香著『春の庭』（聯経出版、2015年）、小川洋子著『妄想気分』（時報出版、2017年）、乃南アサ著『六月の雪』（聯経出版、2019年）、川本三郎著『「男はつらいよ」を旅する』（新経典文化、2019年）など。

・司会



沼野 充義 (ぬまの みつよし)

1954年東京生まれ。東京大学名誉教授、名古屋外国語大学副学長。ロシア文学者、文芸評論家。東京大学卒、ハーバード大学大学院博士課程に学ぶ。ロシア東欧文学から日本文学までを視野に入れた文学研究・批評に携わり、日本と外国の文学交流にも積極的に関わってきた。主著に『亡命文学論』（作品社、2002年）、『ユートピア文学論』（作品社、2003年）、『世界文学論』（作品社、2020年）、など。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp